

普及啓発事業

「九州少年少女ドリームカップサッカー交流大会（3月大会）」事業報告書

事業推進係長 松元 延行

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 小学生が試合等の直接体験を通して、日頃の練習成果を発揮しながらサッカー技術の向上を図るとともに、相互の交流を図る。また、集団宿泊活動を通してチームメイトとの親睦を深める。
- (2) 期 日 平成31年3月2日（土）～3月3日（日） 【1泊2日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 12チーム
宿泊者 210名（選手152名 保護者等58名）
日帰り 2日間合計 221名 総利用者数 641名
- (5) 共 催 NPO法人アソビーゴスポーツクラブ 松本 久義氏
- (6) 外部委託 熊本大学サッカー部（審判業務）
- (7) 後 援 阿蘇市教育委員会
- (8) 担当職員 松元延行（事業推進係長） 尾家義隆（企画指導専門職） 田上正文（事務補佐員）
米村竜太郎（事業支援室係員）
- (9) 内 容 1日目：「予選リーグ戦」「監督者会議」「チーム毎にミーティング等」
2日目：「決勝トーナメントリーグ戦」「表彰」「（閉会式後）フレンドリーマッチ」

2 成果と課題

(1) 成 果

- 参加者のアンケートに「6年生最後の大会で子供達と良い思い出が作れました（監督）」「卒業間近の開催で良かったです（キャプテン）」とあり、今大会が小学6年生最後の交流試合としての役目を担っていることが確認できた。また、夜の活動の選択しとしてレストランでのお菓子パーティーの会場を提供することで、チームメイトの寄せ書きを書いた色紙を渡すなど、チーム内の親睦を深めることができた。
- 参加者のアンケート結果に「大学生に審判をして頂き、子供達の事を見る時間が取れて良かったです（監督者）」「危ない当たりがあったときに、しっかりとファールを取っていたと思う（キャプテン）」との感想があった。今回、熊本大学サッカー部の大学生に審判をしていただくことで、より公平でスムーズな試合運営を行うことができた。
- 2日目が雨天であることが確認できていたため、子供達の体調面を考慮し、夜の監督者会議にて協議した結果、2日目の決勝リーグをトーナメントに変更し試合数を縮小するとともに、試合後の入浴時間を確保し子供達が濡れた体で体調を崩すことのないよう配慮した。結果、全員参加での表彰式と閉会式は実施できなかったが、子供達が体調を崩すことなく大会を終えることができた。

(2) 課 題

- チーム参加費を撤廃し、個人参加費に優勝トロフィー等の費用を当てたため、参加費が複雑となり受付に時間を有した。参加費を容易に試算できるよう要項やチラシ、参加申込書の記載内容に工夫が必要である。
- 今回、審判業務の委託者に大変苦勞した。大会ごとに審判を依頼するのではなく、年度当初から事業計画を基に審判委託者を確保しておく必要がある。
- 天候悪化を受け、日程や進行変更を都度判断してきたが、当事業はまだ肌寒い3月開催であることから、雨天時の運営案を事前に検討するとともに、監督者との臨時会議等で進行を変更できるよう準備を行う必要がある。

3 事業の様子



【開会式の様子】



【審判（熊本大学サッカー部）】



【1日目（予選リーグ）の様子】



【オリエンテーションの様子】



【2日目（決勝トーナメント）の様子】



【2日目（決勝リーグ・PK）の様子】



【表彰式の様子】



【優勝チーム（ドリームキッズサッカークラブ）】